

インターネットによる MSM の HIV 感染予防に関する行動疫学研究—REACH Online 2005—

日高庸晴（財団法人エイズ予防財団リサーチレジデント）
木村博和（横浜市南福祉保健センター）
市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

Men who have Sex with Men (MSM) のインターネット利用層における HIV 感染予防行動の動向把握とそれに関連する心理・社会的要因を明らかにすること、インターネット予防介入の実施に資する情報を得ること、さらにはオンラインモニタリングの基盤構築を目的に、MSM 対象のインターネット調査を実施した。その結果、国内在住 5,731 人（有効回答数）の研究参加を得ることが出来た（調査実施期間：2005 年 8 月 11 日～11 月 30 日）。

これまでの学校教育現場において全体の 93% が同性愛について不適切な対応をされていること、いじめ被害割合は 54.5%、自殺を考えたこと 65.9%、自殺未遂割合 14.0% と深刻な生育歴の一側面が明らかとなった。過去 6 ヶ月間のセックス経験割合は 88.5% であり、そのうち 49.0% にアナルセックス経験があった。過去 6 ヶ月間のコンドーム常用割合は概して低く、10 代と 50 代が最も低かった。過去 1 年間の HIV 抗体検査受検割合は全体で 22.6% であり、10 代と 50 代の受検割合が低いこと、都市部では比較的高い受検割合だが地方都市では低いことが示された。受検場所は保健所が最も多くそれは地方都市でより顕著であった。性感染症の既往歴は梅毒、B 型肝炎、HIV 感染症が高く、HIV 陽性割合は全体で 5.3% であった。東京をはじめとする都市部における陽性割合が高いが、地方都市においても HIV 陽性は 3% 前後を示しており、MSM における HIV 感染の拡大が深刻な段階にあることが示唆された。

東京・名古屋・大阪・福岡で実施されているコミュニティベースの予防介入プロジェクトの認知度はプロジェクトを展開している地域とその周辺においてのみ比較的高く、介入プロジェクトが地域に浸透しつつある段階にあると言えるだろう。

今後は MSM の生育歴や心理・社会的背景を理解すると共に、コンドーム常用の阻害要因を改善するような HIV 対策必要かつ急務である。また、オンラインによる行動疫学サーベイランスの実施を通じて、MSM の現状把握や HIV 感染に関連するリスクについて経年的に捕捉していく必要がある。

A. 研究目的

わが国では 1999 年から MSM (Men who have Sex with Men) を対象としたインターネットによる学術調査が隔年で実施されてきている。1999 年には 1,025 人、2001 年は 388 人（自由記述式回答による質的研究）、2003 年は 2,062

人の研究参加が得られた。一連の研究により MSM のインターネット利用層における HIV 感染予防行動や生育歴、メンタルヘルスの現状など多層的な情報が明らかとなっている。1996 年頃からのインターネットの普及に伴って MSM におけるインターネット利用割合は上昇傾向

にあると考えられ、MSM のインターネット利用割合は比較的高いと推察されている。加えて、近年では米国をはじめとする諸外国において MSM を対象とするオンラインモニタリングの実現可能性が示唆されるとともに、その必要性が示されている。これらのことから、わが国においてもインターネット調査を定期的を実施することを通じて、コンドーム使用行動や性感染症の既往割合などの経年的推移を捕捉する必要があると考えられる。よって本研究の目的は、1) MSM のインターネット利用層における HIV 感染予防行動の動向把握とそれに関連する心理・社会的要因を明らかにすること、2) インターネット予防介入の実施に資する情報を得ることである。

B. 研究方法

これまでに男性とセックスの経験がある男性を対象にインターネット調査を行った。本研究は無記名自記式質問票調査法によって実施し、オンラインインフォームドコンセントの後に質問票を回答するシステムを構築した。研究デザインは横断調査であり実施時期は 2005 年 8 月 11 日～11 月 30 日である。

インターネット調査を実施する上で重要なことのひとつはセキュリティの確保である。調査研究専用のホームページは、セキュリティ機能の付加された http プロトコルである Secure Socket Layer (SSL) によって保護することによって、研究参加者が回答したデータを暗号化してサーバに送信、情報漏洩防止策とした。研究に用いたサーバは Redundant Array of Inexpensive Disks (RAID) 機能を有しており、不測の事態によりサーバのディスクが停止した場合も代替ディスクによりシステムが正常に稼動するように配慮した。またこのサーバは他のインターネットコンテンツとの共有は一切なく、本研究専用として運用した。

質問票はインターネット利用目的、過去 6

ヶ月間の性行動、メンタルヘルス（抑うつ の測定には CES-D を用いた）や生育歴、HIV 抗体検査受検行動、性感染症既往歴、各地域のコミュニティベースの MSM 予防啓発活動の認知度、基本属性などによって構成した。また研究実施の告知は、ゲイサイトへのバナー広告掲載、mixi における口コミおよび mixi コミュニティ創設、Yahoo オーバチュアによるインターネット広告、Mailing List (ML)、ゲイ雑誌、フライヤー、ゲイコミュニティにおけるニューズペーパー等を通じて行った。質問票の重複回答の防止は cookie 機能を用いてその対策とした。2 回目以上の回答分については同一人物からの回答であるか基本属性や回答傾向から有効回答であるかを検討・判断した。

C. 研究結果

基本属性

有効回答数は 5,731 人であり、平均年齢は 30.8 歳 (SD=8.9) であり最低年齢は 12 歳、最高年齢は 82 歳であった。居住地域は北海道・東北地方 6.5%、関東地方（東京都を除く）22.9%、東京都 25.8%、信越・北陸地方 3.0%、東海地方（愛知県を除く）3.9%、愛知県 4.9%、近畿地方（大阪府を除く）9.0%、大阪府 9.4%、中国・四国地方 5.0%、九州地方（福岡県を除く）4.4%、福岡県 3.8%、居住地不明 1.5% であった（表 1）。年齢構成は 10 代 6.5%、20 代 42.4%、30 代 35.5%、40 代 11.4%、50 代以上 3.6%、年齢不明 0.6% であった（表 2）。自認する性的指向はゲイ 67.5%、バイセクシュアル 25.9% であった。最終学歴は大卒以上割合が 56.4%、職業はフルタイム勤務が 61.7%、パートタイム・アルバイトが 9.9%、学生は 16.2% であった。その他の基本属性は表 3～4 の通りである。

教育現場における同性愛の扱い

これまでの学校教育で同性愛についてのどの

ような情報を得てきたか尋ねたところ、「一切習っていない」78.5%、「同性愛は異常なもの」3.9%、「同性愛について否定的情報」10.7%、「同性愛について肯定的情報」4.3%、「その他」0.6%であった。「一切習っていない」「異常なもの」「否定的情報」を合算すると全体の93%が学齢期の教育現場において同性愛について不適切な対応や情報提供をされていることが明らかとなった。さらにこの対応は年齢階級と有意であり、「一切習っていない」割合は若年層に多い一方、「否定的情報」も若年層になるにつれその割合が多かった(図1)。

生育歴

学校教育におけるエイズ予防教育の現状は、「男女の予防」47.4%、「男性同性間の予防」11.3%であり、それぞれ年齢階級と有意であった。学校生活で「仲間はずれ」42.7%や「教室での居心地の悪さ」57.0%、「言葉によるいじめ被害経験」54.5%、それ以外の「いじめ被害経験」45.1%は年齢階級と有意であった。また、「特に用事がないのに保健室に行ったこと」は小中高およびこれまでを通じて14.4~32.1%であり年齢階級と有意であった。

自殺関連行動としては、「これまでに自殺を考えたこと」65.9%、自殺未遂割合は14.0%でありそれぞれ年齢階級と有意であった(表5)。

セックスに投影される心理

「病気の予防も大切だけれど、予防以上に相手とナマでつながりたいと思うこと」「セックスしてくれるなら、コンドームを使わないでもいいと思うこと」といったセックスに投影される心理やコンドーム使用交渉経験、ライフスタイルに関する項目それぞれは年齢階級と有意であった(表6)。

コンドーム常用割合

全体の88.5%(5,073人)が過去6ヶ月間に男性とセックス経験があり、そのうち49.0%(2,488人)が過去6ヶ月間にアナルセックスを経験していた。コンドーム常用割合は全体で26%であり、年齢階級と有意であった。10代9.8%、20代26.4%、30代28.7%、40代23.1%、50代以上13.7%であった。また、コンドーム常用割合と過去6ヶ月間のセックスの人数は有意であり、1人のみ3.8%、2~3人27.3%、4~5人30.8%、6人以上は27.2%であった(図2)。

コンドーム常用阻害要因

コンドーム常用と以下の項目全てに有意な関連があり、こういった心理的背景がある者のコンドーム常用割合は低く、コンドーム常用の阻害要因の一側面であることが示唆された(図3、4)。

- ・病気の予防も大切だけれど、予防以上に相手とナマでつながりたいと思うこと
- ・コンドームを使うと、気まずい感じになるのではないかと不安に思うこと
- ・セックスしてくれるなら、コンドームを使わないでもいいと思うこと
- ・好きな相手だから、コンドームを使わないでもいいと思うこと
- ・コンドームは相手との距離感を感じさせるものだと思うこと
- ・自分がコンドームを使わないことで、自分の愛情を相手に示そうとすること
- ・コンドームが手元にあっても使わないこと
- ・コンドームを使って欲しいと言ったけど、相手が使ってくれなかったこと
- ・コンドームを使って欲しいと言って、相手が使ってくれたこと
- ・自分がコンドームを使わないことで、自分の愛情を相手に示そうとすること

- ・自分がコンドームを使わないことで、相手の愛情を確認しようとする事
- ・目の前の相手とセックスできるなら、予防は二の次だと思うこと
- ・薬を飲んで治る性感染症ならば、「うつってもいいや」と思うこと
- ・危ないとわかっているけどもしいたいことがある
- ・「自分が HIV に感染してもかまわない」と思うことがある
- ・「いつ死んでもいい」と思うことがある

また、CES-D によって抑うつ群と非抑うつ群をスクリーニングした結果、コンドーム常用と抑うつは有意であり、抑うつ群のコンドーム常用割合が低かった (図 5)。

過去 6 ヶ月間の活動状況

過去 6 ヶ月間の性的活動状況は、サウナ系ハッテン場 37.3%、ビデオボックス系ハッテン場 20.4%、マンション系ハッテン場 28.0%、商業的ハッテン場 (サウナ系、ビデオボックス系、マンション系) のいずれか 52.6%、クラブ (男女 mix) 20.8%、クラブ (男 only) 23.0%、お金を払って男性とセックス 15.8%、お金をもらって男性とセックス 10.2%、ゲイバーに行ったこと 54.2%、インターネットで知り合った男性とセックス 56.9%、携帯出会い系で知り合った男性とセックス 36.6%、Living Together に行ったこと 1.9%、ageha に行ったこと 7.7% であり、過去 6 ヶ月間の活動状況は年齢階級と有意であった (表 7)。

HIV 抗体検査受検行動

過去 1 年間の受検行動は全体で 22.6% であり (表 8)、年齢階級別では 10 代と 50 代の受検割合が低率であった。居住地域別では北海道・東北地方 16.0%、関東地方 (東京都を除く) 20.1%、東京都 28.5%、信越・北陸地方 15.0%、東海地方 (愛知県を除く) 20.8%、愛知県 25.0%、近畿地方 (大阪府を除く) 20.3%、

大阪府 26.6%、中国・四国地方 22.1%、九州地方 (福岡県を除く) 19.5%、福岡県 18.9%、居住地不明 11.6% であった (表 9)。

過去 1 年間の受検者の受検場所は保健所が最も多く 35.7%、次いで病院・医院 28.7%、南新宿検査・相談室 14.3% の順であった。また、保健所利用は 10~20 代の若年層と地方都市でその割合がより高かった (表 10、11)。

過去 1 年間の受検者の一部は検査場面で保健師・医師等の専門職による不適切な対応に遭遇していることが明らかとなった。「異性愛者であることが前提の会話」や「女性が接待する性風俗の話」など、年齢階級別では 2 割~3 割の受検者がこれらの対応をされていた (表 12)。

性感染症等既往歴

これまでの性感染症既往歴 (自己申告) は全体で 28.3% であり (表 13)、HIV 感染症 5.3%、梅毒 10.6%、A 型肝炎 2.7%、B 型肝炎 7.3%、淋菌感染症 6.6%、クラミジア 7.8%、コンジローマ 5.5%、アメーバ赤痢 3.0%、その他の性感染症 6.4% であった。また性感染症の既往歴は年齢階級と居住地域によってその割合に違いがみられた (表 14、15)。

薬物使用状況

これまでの薬物使用経験は全体で 59.3% であり、ラッシュ 55.2%、5MEO-DIPT 22.6% であった。また、過去 6 ヶ月間の薬物使用経験は 44.2% であり、ラッシュ 33.1%、5MEO-DIPT 8.8% であり、それぞれ年齢階級と有意であった (表 16)。

予防介入プロジェクト認知度

東京・名古屋・大阪・福岡において実施されているコミュニティベースの予防介入プロジェクト認知度は居住地域と有意であった。東京地域で展開されている Rainbow Ring の認知度は 9.6%~16.9%、新宿 2 丁目に開設されてい

るコミュニティセンターakta の認知度は 6.8%~26.6%であり、関東地方及び東京都在住者の認知度が高かった。名古屋地域で展開されている Angel Life Nagoya の認知度は 2.4%~20.7%、名古屋市に開設されているコミュニティセンター3N の認知度は 1.2%~15.0%であり、東海地方および愛知県在住者の認知度が高かった。大阪地域で展開されている MASH 大阪の認知度は 4.7%~37.5%、大阪市に開設されているコミュニティセンターdista の認知度は 0%~20.5%、コミュニティペーパーSaL+を読んだことがある割合は 1.2%~23.1%であり、近畿地方および大阪府在住者の認知度が高かった。福岡地域で展開されている Love Act Fukuoka の認知度は 0.6%~23.0%、コミュニティペーパーseason を読んだことがある割合は 1.1%~10.6%であり、九州・沖縄地方および福岡県在住者の認知度が高かった。

また、一部の HIV 関連施策の認知割合は居住地域と有意であった。

D. 考察

わが国における MSM 研究において過去最高の研究参加者数となり、MSM ネット研究としては世界最大規模となった。本研究ではゲイサイトへのバナー広告掲載に加えて、mixi での告知、Yahoo オーバチュアの活用によってより多くの MSM インターネット利用者に研究実施を周知できたと言えるだろう。研究参加者数が 2003 年の調査（有効回答数 2,062 人）よりも増えたことにより、年齢階級別および居住地域別の詳細な分析が可能となり、オンラインモニタリングを経年的に開始していく基盤が整ったと考えられる。

研究参加者の最低年齢は 12 歳、最高年齢は 82 歳でありこれまでのわが国における MSM 対象のインターネット調査のどれよりも年齢層の幅が広がり、学歴においても大卒以上割合が最も低く、インターネット利用と研究参加者の

層がこれまでよりも拡大してきたと言えるだろう。

学校教育における同性愛の取り扱い状況は 1999 年実施の先行研究の結果と全く同様の結果であり、教育現場で同性愛について不適切な対応（何も教えない、異常、否定的といった情報を教える）が続いているものと推察される。非異性愛を自覚しつつある学齢期の子どもたちに、多様な性のあり方やそれに関連する情報提供は教育現場において必要なものと考えられる。また、自らの性的指向に戸惑いや悩みをもつ非異性愛の子どもたちが発達段階において、同性愛についての肯定的あるいは中立的な情報に触れることは極めて意義深く必要なことであろう。また、教育現場でのいじめ被害や用事がなくても保健室に行く子どもたちが一定層いる現状を考えれば、少なくとも教員対象に多様なセクシュアリティの理解を促進させる機会提供が必要であろう。また、いじめの背後に性的指向やセクシュアリティのことが関連しているかもしれないという視点をクラス担任や養護教諭が持つことも、現場で必要な対策を講じる一歩になると考えられる。

コンドーム常用割合はこれまでの国内ネット研究の中で最も低く、年齢階級別では 10 代と 50 代以上が最も低かった。過去 6 ヶ月間のセックスの相手の人数別では相手の数が 5 人までであればその割合は上昇傾向であるが、6 人以上になると常用割合は転落傾向にあった。この傾向は 2003 年の調査結果と全く同様であるが、全体的に常用割合が極めて低かった。また、コンドーム常用の阻害要因としてセックスに投影される心理やその他の心理・社会的要因、抑うつ等があることが明らかとなった。今後はこれまでの研究の中で最も低いコンドーム常用割合に関連する要因を質的・量的ともにさらに明らかにするとともに、本研究で示された阻害要因を改善するような HIV 予防対策の実施が急務である。

過去 6 ヶ月間の活動状況は商業的ハッテン場、ゲイバー、インターネットおよび携帯電話を介して知り合った男性とのセックス割合が比較的高く、性的にアクティブな集団であった。

過去1年間の HIV 抗体検査受検割合は全体で 22.6%であり、都市部でその割合が高かった。また、受検場所は保健所が最も多かった。これらのことから、MSM が受検しやすい検査環境が都市部に整いつつあること、あるいは都市部の MSM の方が検査の必要性を感じていると言えるかもしれない。しかしながらその一方、受検者の約 4 人に 1 人は「女性に関する話題」を保健師や医師など検査に携わる専門職の側からされており、不適切な対応があると言わざるを得ない。また、迅速検査のありかについても改善を促す体験談も自由記述欄を通じて寄せられた。

これまでの性感染症既往割合は HIV 感染症、梅毒、B 型肝炎は国内先行研究同様にその割合は高く、都市部において顕著な傾向であった。

HIV 抗体検査受検促進要因や性感染症クリニック受診促進要因を明らかにするとともに、地方都市においても都市部同様に MSM が受検しやすい環境整備を進めていくことが必要である。同時に、適切な MSM 対応がされるよう関係機関への働きかけや、保健師や医師を対象とした MSM に特化した研修の実施も急務である。

薬物使用については先行研究同様にラッシュと 5MEO-DIPT の使用割合が高かった。薬物使用は HIV 陽転の促進要因になるということや、薬物使用と HIV リスク行動に強い関連があることが欧米の研究結果で示されている。HIV 予防啓発を推進するにあたってコンドーム使用や HIV 抗体検査のプロモーションだけではなく、薬物の危険性やその使用を防止するような働きかけも今後必要である。

コミュニティベースの予防介入プロジェクトの認知度は、プロジェクトを展開している地域及びその周辺が他地域に比べると高く、介入

プロジェクトが浸透しつつある段階にあることが示唆された。

E. 結語

MSM の生育歴や心理・社会的背景を理解すると共に、コンドーム常用の阻害要因を改善するような HIV 対策が急務である。また、今度もオンラインによる行動疫学サーベイランスの実施を通じて、MSM の現状把握や HIV 感染に関連するリスクについて経年的に捕捉していく必要がある。

F. 発表論文等

和文

日高庸晴、HIV 感染予防行動の阻害要因、季刊 SEXUALITY、22 巻、32~37、2005 年

英文

Hidaka, Y., Ichikawa, S., Koyano, J., Urao, M., Yasuo, T., Kimura H, Ono-KiharaM, Kihara M.

Profile of substance use and sexual practices among Japanese men who have sex with men recruited through the Internet. Journal of Urban Health (投稿中)

学会発表

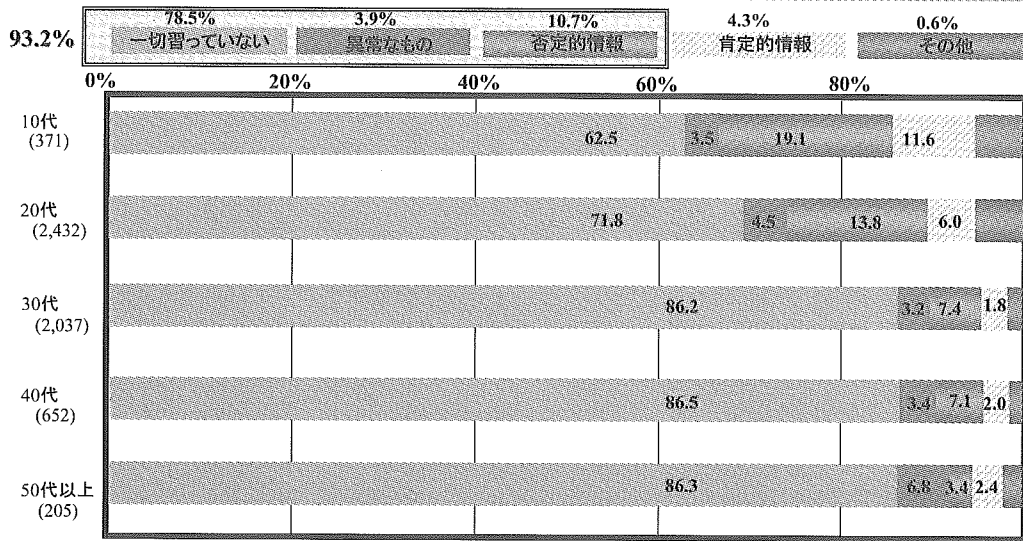
Kihara, OM, M. Shahrzad, Homma T, Yamazaki H, Hidaka Y, Zamani S, Kihara M
HIV/STD-Related Knowledge and Attitudes, and Sexual Behavior of Junior High School Students in a Local City in Japan.
7th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, 2005.7.2., Kobe

Hidaka, Y., Ichikawa, S., Koyano, J., Urao, M., Yasuo, T., Kimura H, Kihara M.
HIV testing behavior among Japanese Men who have Sex with Men.
7th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, 2005.7.3., Kobe

Kamakura M, Komatsu R, Ikegami K, Kimura K, Hidaka Y
An Analysis of Recent Different Trends of HIV Infection in Developed Countries.
7th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, 2005.7.3., Kobe

図1. 教育現場における同性愛の扱い 圧倒的に欠如

N=5,731

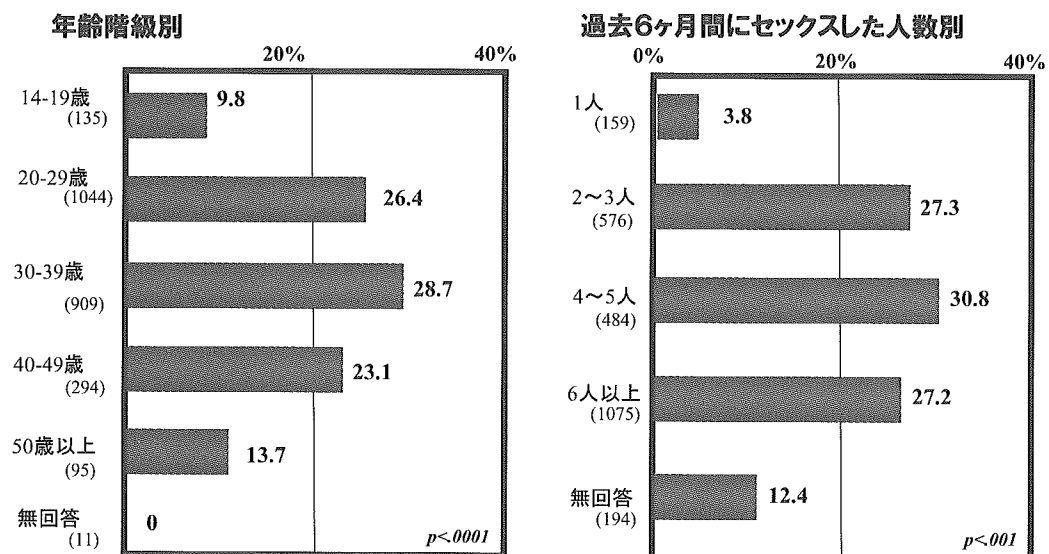


$p < .0001$

1999年実施のインターネット調査とまったく同様の傾向

図2. コンドーム常用割合は26% ー過去最低の常用率ー

N=2,488



$p < .0001$

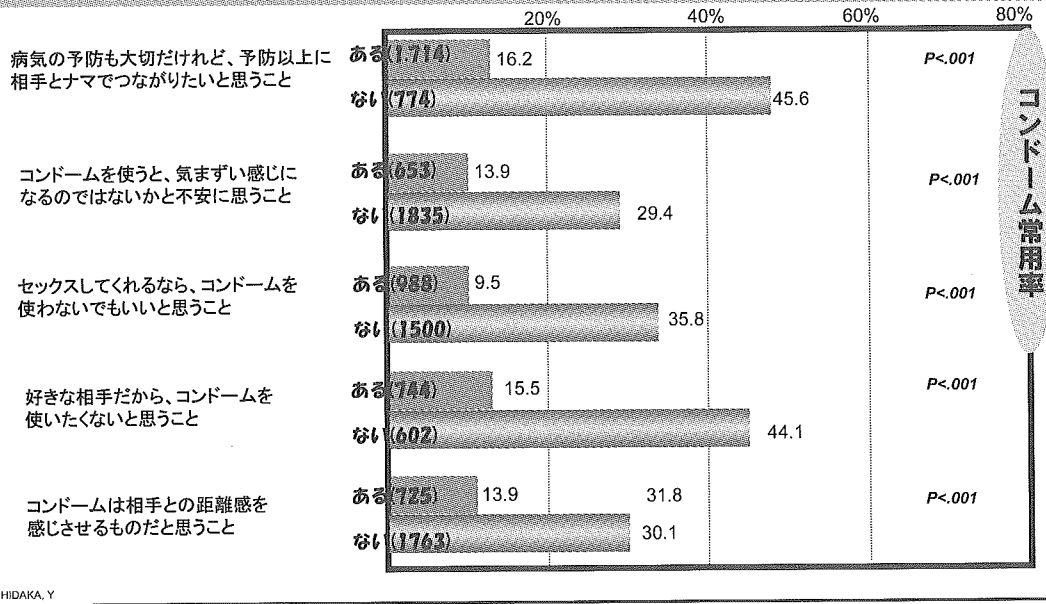
$p < .001$

常用割合に地域差はなし

HIDAKA, Y

図3. 過去6ヶ月間のアナルセックス経験者におけるセックスに投影される心理とゴム常用の関連

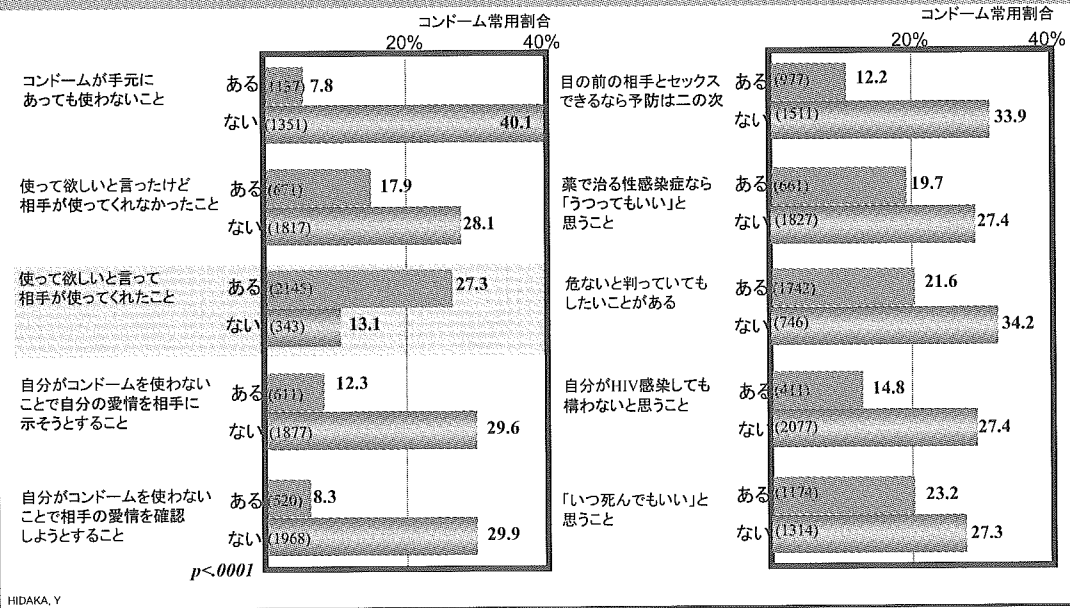
N=2,488



HIDAKA, Y

図4. 過去6ヶ月間のアナルセックス経験者における心理・社会的要因とゴム常用の関連

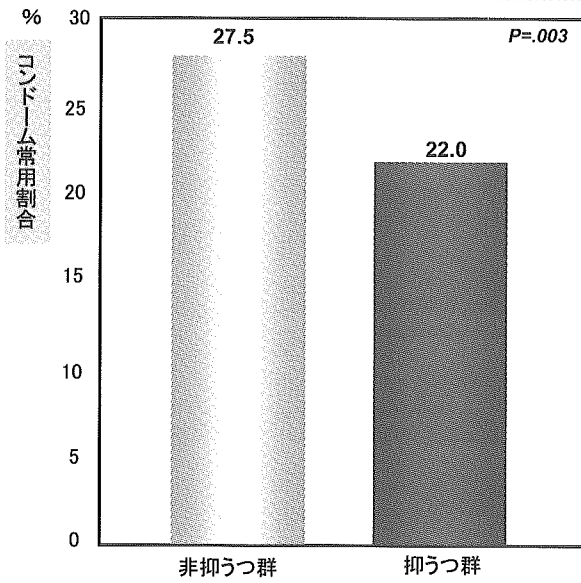
N=2,488



HIDAKA, Y

図5. 過去6ヶ月間にアナルセックス経験者における
コンドーム常用と抑うつとの関連

N=2,488



CES-Dによるスクリーニング
抑うつ群は有意にゴムを使っていない

HIDAKA, Y

表 1 REACH Online 2005 研究参加者の居住地

居住地	n	%
北海道・東北地方	374	6.5
関東地方	1,311	22.9
東京都	1,479	25.8
信越・北陸地方	173	3.0
東海地方	221	3.9
愛知県	280	4.9
近畿地方	513	9.0
大阪府	541	9.4
中国・四国地方	285	5.0
九州・沖縄地方	251	4.4
福岡県	217	3.8
無回答	86	1.5
全体	5,731	100

表 2 研究参加者の年齢分布 平均年齢 30.76 歳(SD=8.88)

年齢階級	n	%
10代 12歳—19歳	371	6.5
20代 20歳—29歳	2,432	42.4
30代 30歳—39歳	2,037	35.5
40代 40歳—49歳	652	11.4
50代以上 50歳—82歳	205	3.6
無回答	34	0.6
全体	5,731	100

表 3 基本属性

基本属性	n	%
自認する性的指向		
ゲイ	3,868	67.5
バイセクシュアル	1,484	25.9
ヘテロセクシュアル	48	0.8
決めたくない	172	3.0
判らない	120	2.1
その他	17	0.3
無回答	22	0.4
学歴		
大学院修了(在)	476	8.3
大学卒(在)	2,759	48.1
短大卒(在)	159	2.8
専門学校卒(在)	870	15.2
高校卒(在)	1,294	22.6
中学卒(在)	155	2.7
無回答	18	0.3
職業		
学生	931	16.2
パートタイム	570	9.9
フルタイム	3,538	61.7
無職	288	5.0
その他	386	6.7
無回答	18	0.3
婚姻形態		
未婚	5,013	87.5
既婚	488	8.5
別居中	20	0.3
離婚	161	2.8
死別	8	0.1
無回答	44	0.7
恋人がいる		
相手が男性	2,361	41.2
セックスフレンドがいる		
相手が男性	1,904	33.2
心を許せるゲイ・バイセクシュアルの友達		
いる	3,731	65.1
心を許せる異性愛の友達		
いる	3,361	58.6

表 4 基本属性(続き)

基本属性	n	%
肝炎予防ワクチン接種あり		
A型	178	3.1
B型	335	5.8
過去1年間の献血		
あり	718	12.5
親へのカミングアウト		
カミングアウトしている	791	13.8
両親ともに	417	7.3
母親のみ	341	6.0
父親のみ	33	0.6
親以外へのカミングアウト		
カミングアウトしている	2,546	44.4
1人だけ	478	8.3
2人~3人	637	11.1
4人~5人	428	7.5
6人~9人	165	2.9
10人以上	757	13.2
過去6ヶ月間に Condom を買ったこと		
あり	2,343	40.9
過去1年間に Condom を買ったこと		
あり	3,026	52.8
スポーツクラブ		
入会している	1,568	27.4
喫煙状況		
吸わない	3,170	55.3
時々吸う	359	6.3
毎日吸う	2,155	37.6
飲酒状況		
飲まない	1,562	27.3
時々飲む	3,279	57.2
毎日飲む	853	14.9
日本に同性婚の制度があればいいと思う		
そう思う	3,363	58.7
そう思わない	656	11.4
どちらとも言えない	1,674	29.2

表5. 生育歴における出来事

	10代 n=371	20代 n=2,432	30代 n=2,037	40代 n=652	50代以上 n=205	無回答 n=34	全体 n=5,731
日本語の書物のなかで同性愛について差別的な記述を読んだこと	180 (48.5)	1,407 (57.9)	1,294 (63.5)	455 (69.8)	131 (63.9)	19 (55.9)	3,486 (60.8)
これまでの学校教育で、異性間(男女)のエイズ予防についての情報を得たこと	319 (86.0)	1,737 (71.4)	556 (27.3)	61 (9.4)	26 (12.7)	19 (55.9)	2,718 (47.4)
これまでの学校教育で、男性同性間(男性同士)のエイズ予防についての情報を得たこと	79 (21.3)	349 (14.4)	163 (8.0)	37 (5.7)	14 (6.8)	6 (17.6)	648 (11.3)
これまでの学校生活で、仲間はずれにされていると感じたこと	150 (40.4)	1,096 (45.1)	916 (45.0)	236 (36.2)	41 (20.0)	8 (23.5)	2,447 (42.7)
これまでの学校生活で、教室の中で居心地の悪さを感じたこと	208 (56.1)	1,490 (61.3)	1,175 (57.7)	322 (49.4)	56 (27.3)	13 (38.2)	3,264 (57.0)
「ホモ・おかま・おとこおんな」といった言葉でいじめられたこと	178 (48.0)	1,324 (54.4)	1,187 (58.3)	345 (52.9)	76 (37.1)	16 (47.1)	3,126 (54.5)
「ホモ・おかま・おとこおんな」といった言葉以外でいじめられたこと	146 (39.4)	1,099 (45.2)	996 (48.9)	275 (42.2)	58 (28.3)	11 (32.4)	2,585 (45.1)
小学生の時、特に用事がないのに保健室に行ったこと	81 (21.8)	532 (21.9)	357 (17.5)	110 (16.9)	14 (6.8)	6 (17.7)	1,100 (19.2)
中学生の時、特に用事がないのに保健室に行ったこと	105 (28.3)	591 (24.3)	333 (16.3)	84 (12.9)	16 (7.8)	7 (20.6)	1,136 (19.8)
高校生の時、特に用事がないのに保健室に行ったこと	89 (24.0)	456 (18.8)	211 (10.4)	50 (7.7)	15 (7.3)	6 (17.6)	827 (14.4)
これまでの学校生活で、特に用事がないのに保健室に行ったこと	159 (42.9)	936 (38.5)	562 (27.6)	147 (22.5)	28 (13.7)	10 (29.4)	1,842 (32.1)
これまでに自殺を考えたこと	240 (64.7)	1,655 (68.1)	1,346 (66.1)	408 (62.6)	106 (51.7)	20 (58.8)	3,775 (65.9)
これまでに自殺未遂したこと	60 (16.2)	367 (15.1)	279 (13.7)	78 (12.0)	17 (8.3)	4 (11.8)	805 (14.0)

表6. セックスに投影される心理

	10代 n=371	20代 n=2,432	30代 n=2,037	40代 n=652	50代以上 n=205	無回答 n=34	全体 n=5,731
病気の予防も大切だけれど、予防以上に相手とナマでつながりたいと思うこと	269 (72.5)	1,581 (65.0)	1,290 (63.3)	421 (64.6)	154 (75.1)	22 (64.7)	3,737 (65.2)
コンドームを使うと、気まずい感じになるのではないかと不安に思うこと	144 (38.8)	649 (26.7)	475 (23.3)	173 (26.5)	67 (32.7)	9 (26.5)	1,517 (26.5)
セックスしてくれるなら、コンドームを使わなくてもいいと思うこと	182 (49.1)	864 (35.5)	742 (36.4)	275 (42.2)	107 (52.2)	17 (50.0)	2,187 (38.2)
好きな相手だから、コンドームを使わなくてもいいと思うこと	260 (70.1)	1,586 (65.2)	1,217 (59.7)	382 (58.6)	142 (69.3)	22 (64.7)	3,809 (63.0)
コンドームは相手との距離感を感じさせるものだと思うこと	145 (39.1)	671 (27.6)	551 (27.0)	218 (33.4)	82 (40.0)	15 (44.1)	1,682 (29.3)
自分がコンドームを使わないことで、自分の愛情を相手に示そうとすること	124 (33.4)	562 (23.1)	426 (20.9)	153 (23.5)	64 (31.2)	16 (47.1)	1,345 (23.5)
コンドームが手元にあっても使わないこと	151 (40.7)	1,007 (41.4)	849 (41.7)	287 (44.0)	112 (54.6)	18 (52.9)	2,424 (42.3)
コンドームを使って欲しいと言ったけど、相手が使ってくれなかったこと	116 (31.3)	627 (25.8)	528 (25.9)	142 (21.8)	43 (21.0)	11 (32.4)	1,467 (25.6)
コンドームを使って欲しいと言って、相手が使ってくれたこと	279 (75.2)	2,017 (82.9)	1,718 (84.3)	526 (80.7)	148 (72.2)	26 (76.5)	4,714 (82.3)
目の前の相手とセックスできるなら、予防はこの次だと思うこと	169 (45.6)	905 (37.2)	758 (37.2)	227 (34.8)	88 (42.9)	16 (47.1)	2,163 (37.7)
自分がコンドームを使わないことで、相手の愛情を確認しようとする事	120 (32.3)	486 (20.0)	371 (18.2)	122 (18.7)	49 (23.9)	7 (20.6)	1,155 (20.2)
薬を飲んで治る性感染症ならば、「うつってもいいや」と思うこと	99 (26.7)	584 (24.0)	482 (23.7)	191 (29.3)	40 (19.5)	4 (11.8)	1,400 (24.4)
セックスの相手が見つからないと、自信をなくしてしまうこと	176 (47.4)	1,269 (52.2)	1,100 (54.0)	335 (51.4)	91 (44.4)	14 (41.2)	2,985 (52.1)
セックスした日は、自分に自信がもてること	149 (40.2)	1,018 (41.9)	892 (43.8)	305 (46.8)	106 (51.7)	18 (52.9)	2,488 (43.4)
危ないとわかっているけど、したいことがある	258 (69.5)	1,666 (68.5)	1,300 (63.8)	414 (63.5)	123 (60.0)	21 (61.8)	3,782 (66.0)
「自分がHIVに感染してもかまわない」と思うことがある	61 (16.4)	381 (15.7)	311 (15.3)	89 (13.7)	24 (11.7)	6 (17.6)	872 (15.2)
「いつ死んでもいい」と思うことがある	180 (48.5)	1,171 (48.1)	971 (47.7)	261 (40.0)	72 (35.1)	14 (41.2)	2,669 (46.6)
「元気に長生きしたい」と思う	266 (71.7)	1,803 (74.1)	1,509 (74.1)	527 (80.8)	170 (82.9)	25 (73.5)	4,300 (75.0)
「あまり長生きはしたくない」と思う	195 (52.6)	1,451 (59.7)	1,310 (64.3)	374 (57.4)	94 (45.9)	18 (52.9)	3,442 (60.1)

表7. 過去6ヶ月間の活動状況

	10代 n=371	20代 n=2,432	30代 n=2,037	40代 n=652	50代以上 n=205	無回答 n=34	全体 n=5,731
サウナ系ハッテン場に行ったこと p<.001	15.4	738 (30.3)	916 (45.0)	307 (47.1)	106 (51.7)	13 (38.2)	2,137 (37.3)
ビデオボックス系ハッテン場に行ったこと p<.001	8.4	521 (21.4)	455 (22.3)	128 (19.6)	29 (14.1)	5 (14.7)	1,169 (20.4)
マンション系ハッテン場に行ったこと p<.001	12.4	769 (31.6)	621 (30.5)	149 (22.9)	15 (7.3)	6 (17.6)	1,606 (28.0)
商業的ハッテン場のいずれかに行ったこと p<.001	25.9	1,238 (50.9)	1,193 (58.6)	362 (55.5)	113 (55.1)	15 (44.1)	3,017 (52.6)
クラブ(男女mix)に行ったこと p<.001	14.6	675 (27.8)	385 (18.9)	60 (9.2)	14 (6.8)	5 (14.7)	1,193 (20.8)
クラブ(男only)に行ったこと p<.001	12.1	705 (29.0)	468 (23.0)	79 (12.1)	17 (8.3)	5 (14.7)	1,319 (23.0)
お金を払って男性とセックスしたこと p<.001	1.6	252 (10.4)	415 (20.4)	173 (26.5)	47 (22.9)	10 (29.4)	903 (15.8)
お金をもらって男性とセックスしたこと p<.001	25.6	326 (13.4)	123 (6.0)	29 (4.4)	7 (3.4)	3 (8.8)	583 (10.2)
ゲイバーに行ったこと p<.001	28.6	1,363 (56.0)	1,175 (57.7)	356 (54.6)	91 (44.1)	15 (44.1)	3,106 (54.2)
インターネットで知り合った男性とセックスしたこと p<.001	62.8	1,485 (61.1)	1,085 (53.3)	346 (53.1)	98 (47.8)	14 (41.2)	3,261 (56.9)
携帯出会い系サイトで知り合った男性とセックスしたこと p<.001	43.9	1,107 (45.5)	634 (31.1)	160 (24.5)	27 (13.2)	6 (17.6)	2,097 (36.6)
Living Togetherのイベントに参加したこと p=.165	1.3	59 (2.4)	36 (1.8)	7 (1.1)	2 (1.0)	1 (2.9)	110 (1.9)
東京新木場のagehaに行ったこと p<.001	1.3	251 (10.3)	161 (7.9)	23 (3.5)	2 (1.0)	2 (5.9)	444 (7.7)

表8. HIV抗体検査受検行動

	10代 n=371	20代 n=2,432	30代 n=2,037	40代 n=652	50代以上 n=205	無回答 n=34	全体 n=5,731
これまでにHIV抗体検査を受検したことがある p<.001	17.0	919 (37.8)	1,020 (50.1)	298 (45.7)	80 (39.0)	10 (29.4)	2,390 (41.7)
過去1年間にHIV抗体検査を受検した p<.001	13.5	564 (23.2)	519 (25.5)	127 (19.5)	34 (16.6)	4 (11.8)	1,298 (22.6)

表9. 過去1年のHIV抗体検査受検行動

	北海道・東北 n=374	関東 n=1,311	東京 n=1,479	信越・北陸 n=173	東海 n=221	愛知 n=280	近畿 n=513	大阪 n=541	中国・四国 n=285	九州・沖縄 n=251	福岡 n=217	無回答 n=86	全体 n=5,731
これまでにHIV抗体検査を受検した	108 (28.9)	505 (38.5)	790 (53.4)	66 (38.2)	83 (37.6)	127 (45.4)	189 (36.8)	244 (45.1)	92 (32.3)	83 (33.1)	82 (37.8)	21 (24.4)	2,390 (41.7)
過去1年間にHIV抗体検査を受検した	60 (16.0)	284 (20.1)	421 (28.5)	26 (15.0)	46 (20.8)	70 (25.0)	104 (20.3)	144 (26.6)	63 (22.1)	49 (19.5)	41 (18.9)	10 (11.6)	1,298 (22.6)

これまでにHIV抗体検査を受検した p<.001

過去1年間にHIV抗体検査を受検した p<.001

表10. 過去1年間のHIV抗体検査受検場所

	10代 n=50	20代 n=564	30代 n=519	40代 n=127	50代以上 n=34	無回答 n=4	全体(実数) n=1,298
保健所	25 (50.0)	231 (41.0)	169 (32.6)	32 (25.2)	6 (17.6)	1 (25.0)	464 (35.7)
病院や医院	9 (18.0)	156 (27.7)	155 (29.9)	36 (28.3)	15 (44.1)	1 (25.0)	372 (28.7)
南新宿検査・相談室	5 (10.0)	76 (13.5)	88 (17.0)	16 (12.6)	0 (0)	0 (0)	185 (14.3)
大阪の土曜常設検査	1 (2.0)	20 (3.5)	15 (2.9)	4 (3.1)	1 (2.9)	0 (0)	41 (3.2)
夜間検査	3 (6.0)	17 (3.0)	22 (4.2)	7 (5.5)	0 (0)	0 (0)	49 (3.8)
土曜検査	1 (2.0)	15 (2.7)	10 (1.9)	5 (3.9)	2 (5.9)	0 (0)	33 (2.5)
休日検査	2 (4.0)	32 (5.7)	22 (4.2)	6 (4.7)	0 (0)	0 (0)	62 (4.8)
HIV検査イベント	4 (8.0)	31 (5.5)	26 (5.0)	8 (6.3)	1 (2.9)	0 (0)	70 (5.4)
自宅検査キット	1 (2.0)	27 (4.8)	28 (5.4)	3 (2.4)	1 (2.9)	0 (0)	60 (4.6)
その他	1 (2.0)	13 (2.3)	12 (2.3)	5 (3.9)	1 (2.9)	0 (0)	32 (2.5)

夜間検査 p=.002

土曜検査 p=.002

休日検査 p=.005

HIV検査イベント p=.006

自宅検査キット p=.004

その他 p=.005

表11. 過去1年にHIV抗体検査受検者における受検場所

	北海道・東北 n=60	関東 n=264	東京 n=421	信越・北陸 n=26	東海 46	愛知 n=70	近畿 n=104	大阪 n=144	中国・四国 n=63	九州・沖縄 n=49	福岡 n=41	無回答 n=10	全体(実数) n=1,298
保健所	27 (45.0)	102 (38.6)	98 (23.3)	7 (26.9)	15 (32.6)	27 (38.6)	29 (27.9)	70 (48.6)	34 (54.0)	26 (53.1)	26 (63.4)	3 (30.0)	464 (35.7)
病院や医院	19 (31.7)	78 (29.5)	139 (33.0)	11 (42.3)	14 (30.4)	19 (27.1)	28 (26.9)	24 (16.7)	17 (27.0)	11 (22.4)	10 (24.4)	2 (20.0)	372 (28.7)
南新宿検査・相談室	2 (3.3)	34 (12.9)	143 (34.0)	1 (3.8)	1 (2.2)	0 (0)	0 (0)	1 (0.7)	1 (1.6)	2 (4.1)	0 (0)	0 (0)	185 (14.3)
大阪の土曜常設検査	1 (1.7)	4 (1.5)	3 (0.7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (15.4)	15 (10.4)	1 (1.6)	1 (2.0)	0 (0)	0 (0)	41 (3.2)
夜間検査	4 (6.7)	9 (3.4)	10 (2.4)	0 (0)	4 (8.7)	0 (0)	6 (5.8)	11 (7.6)	2 (3.2)	0 (0)	2 (4.9)	1 (10.0)	49 (3.8)
土曜検査	2 (3.3)	9 (3.4)	11 (2.6)	3 (11.5)	1 (2.2)	0 (0)	4 (3.8)	2 (1.4)	1 (1.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	33 (2.5)
休日検査	2 (3.3)	19 (7.2)	14 (3.3)	0 (0)	4 (8.7)	3 (4.3)	7 (6.7)	8 (5.6)	3 (4.8)	0 (0)	1 (2.4)	1 (10.0)	62 (4.8)
HIV検査イベント	4 (6.7)	6 (2.3)	11 (2.6)	2 (7.7)	6 (13.0)	18 (25.7)	4 (3.8)	13 (9.0)	1 (1.6)	3 (6.1)	1 (2.4)	1 (10.0)	70 (5.4)
自宅検査キット	8 (13.3)	10 (3.8)	20 (4.8)	2 (7.7)	1 (2.2)	0 (0)	6 (5.8)	3 (2.1)	5 (7.9)	3 (6.1)	2 (4.9)	0 (0)	60 (4.6)
その他	6 (10.0)	8 (3.0)	8 (1.9)	0 (0)	0 (0)	3 (4.3)	1 (1.0)	1 (0.7)	1 (1.6)	1 (2.0)	2 (4.9)	1 (10.0)	32 (2.5)

表12. 過去1年間のHIV抗体検査受検者における検査時の専門職の対応

	10代 n=50	20代 n=564	30代 n=519	40代 n=127	50代以上 n=34	無回答 n=4	全体(実数) n=1,298
異性愛者であることが前提の会話があった p=.683	17 (34.0)	160 (28.4)	142 (27.4)	33 (26.0)	12 (35.3)	2 (50.0)	366 (28.2)
「彼女」に関する話題など、女の人の話があった p=.039	18 (36.0)	166 (29.4)	123 (23.7)	25 (19.7)	7 (20.6)	2 (50.0)	341 (26.3)
女性が接待する性風俗の話があった p=.108	4 (8.0)	141 (25.0)	122 (23.5)	30 (23.6)	9 (26.5)	2 (50.0)	308 (23.7)

表13. 性感染症既往歴

	10代 n=371	20代 n=2,432	30代 n=2,037	40代 n=652	50代以上 n=205	無回答 n=34	全体 n=5,731
これまでに性感染症既往歴あり p<.001	27 (7.3)	530 (21.8)	731 (35.9)	249 (38.2)	77 (37.6)	7 (20.6)	1,621 (28.3)
過去1年間に性感染症既往歴あり p<.001	18 (4.9)	259 (10.6)	265 (13.0)	75 (11.5)	27 (13.2)	5 (14.7)	649 (11.3)

表14. これまでの性感染症等既往歴(年齢階級別)

	10代 n=371	20代 n=2,432	30代 n=2,037	40代 n=652	50代以上 n=205	無回答 n=34	全体 n=5,731
梅毒 p<.001	10 (2.7)	176 (7.2)	297 (14.6)	95 (14.6)	28 (13.7)	2 (5.9)	608 (10.6)
A型肝炎 p<.001	7 (1.9)	40 (1.6)	73 (3.6)	26 (4.0)	9 (4.4)	1 (2.9)	156 (2.7)
B型肝炎 p<.001	12 (3.2)	144 (5.9)	180 (8.8)	62 (9.5)	16 (7.8)	2 (5.9)	416 (7.3)
淋菌感染症 p<.001	7 (1.9)	103 (4.2)	168 (8.2)	76 (11.7)	22 (10.7)	3 (8.8)	379 (6.6)
HIV感染症 p<.001	8 (2.2)	97 (4.0)	148 (7.3)	43 (6.6)	8 (3.9)	2 (5.9)	306 (5.3)
クラミジア p<.001	12 (3.2)	156 (6.4)	193 (9.5)	75 (11.5)	11 (5.4)	1 (2.9)	448 (7.8)
尖圭コンジローマ p<.001	10 (2.7)	113 (4.6)	139 (6.8)	40 (6.1)	10 (4.9)	2 (5.9)	314 (5.5)
アメーバ赤痢 p<.001	7 (1.9)	38 (1.6)	81 (4.0)	33 (5.1)	13 (6.3)	1 (2.9)	173 (3.0)
結核 p<.001	6 (1.6)	16 (0.7)	29 (1.4)	16 (2.5)	11 (5.4)	1 (2.9)	79 (1.4)
その他 p<.001	14 (3.8)	134 (5.5)	147 (7.2)	54 (8.3)	15 (7.3)	2 (5.9)	366 (6.4)

表15. これまでの性感染症等既往歴(居住地域別)

	北海道・東北 n=374	関東 n=1,479	東京 n=173	信越・北陸 n=221	東海 n=221	愛知 n=280	近畿 n=513	大阪 n=541	中国・四国 n=285	九州・沖縄 n=251	福岡 n=217	無回答 n=86	全体 n=5,731
梅毒 p<.001	34 (9.1)	128 (9.8)	212 (14.3)	11 (6.4)	19 (8.6)	31 (11.1)	47 (9.2)	60 (11.1)	20 (7.0)	16 (6.4)	26 (12.0)	4 (4.7)	608 (10.6)
A型肝炎 p<.001	8 (2.1)	32 (2.4)	52 (3.5)	2 (1.2)	8 (3.6)	8 (2.9)	17 (3.3)	16 (3.0)	4 (1.4)	0 (0)	8 (3.7)	1 (1.2)	156 (2.7)
B型肝炎 p<.001	19 (5.1)	82 (6.3)	157 (10.6)	6 (3.5)	16 (7.2)	28 (10.0)	32 (6.2)	35 (6.5)	9 (3.2)	8 (3.2)	19 (8.8)	5 (5.8)	416 (7.3)
淋菌感染症 p<.001	17 (4.5)	87 (6.6)	121 (8.2)	11 (6.4)	12 (5.4)	17 (6.1)	27 (5.3)	41 (7.6)	14 (4.9)	10 (4.0)	18 (8.3)	4 (4.7)	379 (6.6)
HIV感染症 p<.001	12 (3.2)	50 (3.8)	127 (8.6)	4 (2.3)	12 (5.4)	19 (6.8)	19 (3.7)	29 (5.4)	11 (3.9)	3 (1.2)	13 (6.0)	7 (8.1)	306 (5.3)
クラミジア p<.001	19 (5.1)	89 (6.8)	141 (9.5)	12 (6.9)	22 (10.0)	15 (5.4)	38 (7.4)	58 (10.7)	11 (3.9)	18 (7.2)	21 (9.7)	4 (4.7)	448 (7.8)
尖圭コンジローマ p<.001	11 (2.9)	68 (5.2)	122 (8.2)	6 (3.5)	10 (4.5)	16 (5.7)	19 (3.7)	35 (6.5)	9 (3.2)	3 (1.2)	13 (6.0)	2 (2.3)	314 (5.5)
アメーバ赤痢 p<.001	9 (2.4)	30 (2.3)	58 (3.9)	2 (1.2)	9 (4.1)	8 (2.9)	16 (3.1)	20 (3.7)	7 (2.5)	3 (1.2)	10 (4.6)	1 (1.2)	173 (3.0)
結核 p=2.42	4 (1.1)	16 (1.2)	22 (1.5)	4 (2.3)	3 (1.4)	3 (1.1)	5 (1.0)	16 (3.0)	4 (1.4)	0 (0)	1 (0.5)	1 (1.2)	79 (1.4)
その他 p<.001	19 (5.1)	76 (5.8)	128 (8.7)	9 (5.2)	17 (7.7)	20 (7.1)	24 (4.7)	33 (6.1)	15 (5.3)	8 (3.2)	14 (6.5)	3 (3.5)	366 (6.4)

表16. 薬物使用歴

	10代 n=371	20代 n=2,432	30代 n=2,037	40代 n=652	50代以上 n=205	無回答 n=34	全体 n=5,731
これまでどれかの薬物使用あり p<.001	122(32.9)	1,460 (60.0)	1,355 (66.5)	383 (58.7)	69 (33.7)	12 (35.3)	3,401 (59.3)
ラッシュ p<.001	110 (29.6)	1,375 (56.5)	1,262 (62.0)	346 (53.1)	58 (28.3)	11 (32.4)	3,162 (55.2)
5MEO-DIPT p<.001	38 (10.2)	529 (21.8)	553 (27.1)	146 (22.4)	22 (10.7)	5 (14.7)	1,293 (22.6)
過去6ヶ月間にどれかの薬物使用あり p<.001	84 (22.6)	1,085 (44.6)	1,012 (49.7)	287 (44.0)	53 (25.9)	11 (32.4)	2,532 (44.2)
ラッシュ p<.001	65 (17.5)	837 (34.4)	765 (37.6)	195 (29.9)	30 (14.6)	5 (14.7)	1,897 (33.1)
5MEO-DIPT p<.001	15 (4.0)	206 (8.5)	212 (10.4)	57 (8.7)	10 (4.9)	2 (5.9)	502 (8.8)

表17. コミュニティベースの予防介入プロジェクトおよびHIV関連施策認知割合

	北海道・東北	関東	東京	信越・北陸	東海	愛知	近畿	大阪	中国・四国	九州・沖縄	福岡	無回答	全体
	n=374	n=1,311	n=1,479	n=173	n=221	n=280	n=513	n=541	n=285	n=251	n=217	n=86	n=5,731
新宿にあるaktaを知っている	35 (9.4)	202 (15.4)	393 (26.6)	13 (7.5)	23 (10.4)	19 (6.8)	47 (9.2)	49 (9.1)	27 (9.5)	17 (6.8)	21 (9.7)	10 (11.6)	856 (14.9)
大阪にあるdistaを知っている	12 (3.2)	51 (3.9)	106 (7.2)	3 (1.7)	10 (4.5)	8 (2.9)	88 (17.2)	111 (20.5)	19 (6.7)	8 (3.2)	9 (4.1)	0 (0)	425 (7.4)
名古屋にある3Nを知っている	8 (2.1)	16 (1.2)	30 (2.0)	2 (1.2)	23 (10.4)	42 (15.0)	15 (2.9)	14 (2.6)	9 (3.2)	4 (1.6)	6 (2.8)	1 (1.2)	170 (3.0)
コミュニティペーパー-Sal+を読んだことがある(MASH大阪制作)	9 (2.4)	32 (2.4)	81 (5.5)	3 (1.7)	10 (4.5)	4 (1.4)	72 (14.0)	125 (23.1)	16 (5.6)	9 (3.6)	10 (4.6)	1 (1.2)	372 (6.5)
コミュニティペーパー-seasonを読んだことがある(LAF制作)	4 (1.1)	27 (2.1)	57 (3.9)	3 (1.7)	6 (2.7)	4 (1.4)	16 (3.1)	11 (2.0)	4 (1.4)	10 (4.0)	23 (10.6)	2 (2.3)	167 (2.9)
MASH大阪を知っている	26 (7.0)	76 (5.8)	190 (12.8)	15 (8.7)	24 (10.9)	29 (10.4)	126 (24.6)	203 (37.5)	39 (13.7)	14 (5.6)	22 (10.1)	4 (4.7)	768 (13.4)
Rainbow Ringを知っている	55 (14.7)	149 (11.4)	250 (16.9)	23 (13.3)	31 (14.0)	30 (10.7)	69 (13.5)	63 (11.6)	35 (12.3)	24 (9.6)	26 (12.0)	13 (15.1)	768 (13.4)
Angel Life Nagoyaを知っている	18 (4.8)	31 (2.4)	74 (5.0)	9 (5.2)	34 (15.4)	58 (20.7)	28 (5.5)	18 (3.3)	11 (3.9)	7 (2.8)	8 (3.7)	4 (4.7)	300 (5.2)
LAF-Love Act Fukuokaを知っている	6 (1.6)	9 (0.7)	26 (1.8)	1 (0.6)	6 (2.7)	4 (1.4)	10 (1.9)	8 (1.5)	7 (2.5)	16 (6.4)	50 (23.0)	1 (1.2)	144 (2.5)
Living Togetherを知っている	27 (7.2)	129 (9.8)	240 (16.2)	6 (3.5)	16 (7.2)	21 (7.5)	34 (6.6)	47 (8.7)	18 (6.3)	16 (6.4)	18 (8.3)	6 (7.0)	578 (10.1)
生活保護制度を知っている	240 (64.2)	715 (54.5)	828 (56.0)	89 (51.4)	108 (48.9)	135 (48.2)	284 (55.4)	282 (52.1)	158 (55.4)	145 (57.8)	127 (58.5)	46 (53.5)	3,157 (55.1)
障害年金制度を知っている	246 (65.8)	754 (57.5)	845 (57.1)	96 (55.5)	117 (52.9)	139 (49.6)	303 (59.1)	293 (54.2)	157 (55.1)	146 (58.2)	135 (62.2)	49 (57.0)	3,280 (57.2)
HIV派遣カウンセラー制度を知っている	33 (8.8)	128 (9.8)	124 (8.4)	18 (10.4)	24 (10.9)	24 (8.6)	58 (11.3)	49 (9.1)	19 (6.7)	16 (6.4)	28 (12.9)	13 (15.1)	534 (9.3)
更生医療制度を知っている	61 (16.3)	184 (14.0)	244 (16.5)	22 (12.7)	35 (15.8)	42 (15.0)	79 (15.4)	74 (13.7)	45 (15.8)	38 (15.1)	32 (14.7)	19 (22.1)	875 (15.3)

東京地区のクラブイベント参加者に対する質問票調査結果の概要

研究協力者：木村博和（横浜市南福祉保健センター）、市川誠一（名古屋市立大学大学院看護学研究科）
佐藤未光（Rainbow Ring・代表）、張 由紀夫（Rainbow Ring）

研究要旨

新宿地区でクラブイベント参加者を対象に質問票調査を実施した（分析数：934）。施設等の利用状況はゲイバーが 78.4%、商業系ハッテン場 45.1%、出会い系サイト 52.8%で、出会い系サイトは前回（2003 年）よりやや上昇した。アナルセックス時のコンドーム常用率（過去 6 ヶ月）は特定相手 58.4-55.9%、不特定相手 64.8-62.0%、またセックス時の併用品はコンドーム 73.0%、水溶性ローション 64.9%であった。コンドーム購入経験は 45.2%で前回より上昇していた。購入場所は薬局 26.6%、コンビニ 12.1%、ゲイショップ 7.3%が上昇し、ハッテン場 3.7%でやや低くなった。過去 1 年間の HIV 検査受検率は 36.0%で前回の 25.4%より上昇した。

啓発コンドーム受け取り率 43.0 で前回の 45.3%とほぼ同率であった。Rainbow Ring の啓発資材の認知をみると、ハッテン場向けの情報誌「Fucks!」が 8.4%、ポスター「つけてやろうぜ」が 24.2%、『「まいっか」じゃないよね』が 17.0%、医療連携情報「S/H」が 4.1%、「Living together Letters」が 13.4%であった。

新宿 2 丁目の akta を認知している MSM は HIV 関連知識正答率、コンドーム受け取り率、過去 6 ヶ月のコンドーム常用率、過去 1 年の HIV 検査受検率が有意に高いことが示され、特に akta を訪ねたことがあるもので顕著であった。同地域のコミュニティ対象の啓発の効果が現れつつある。東京に在住し、過去 6 カ月間のアナルセックス経験が有る MSM（432 人）について、新宿 2 丁目への来訪頻度を～2 回/6 か月（52 人）、3～5 回/6 か月（47 人）、1～3 回/1 か月（190 人）、1 回/週以上（143 人）の 4 群に分類し、知識、意識、行動を比較した。その結果「抗体検査の適切な時期」、「コンドーム耐性」に関する知識、「新新宿検査室」、「R2 の啓発資材」の認知は来所頻度の多い群ほど高かった。コンドーム使用頻度は、来訪頻度「～2 回/6 か月」群で低く、「3～5 回/6 か月」群で高かった。また、過去 1 年間の HIV 抗体検査受検割合は、来訪頻度「～2 回/6 か月」群が最も高かった。

A. はじめに

東京地域における MSM に対する HIV 予防対策の基礎資料とするため、MSM における性行動や HIV に関する知識・情報源、コンドーム使用や抗体検査に関する行動や意識、態度、地域で実施しているプログラムへの接触などを調査した。新宿 2 丁目および新木場地区でのゲイ向けおよびミックス系のクラブイベントに参加した MSM を対象として質問票調査を行った。本研究は、当研究班で実施される予防対策プログラムについて、啓発資材の訴求効果やコンドーム常備、常用への啓発効果、HIV 検査受検行動への啓発効果などについて評価していくことを目的としている。調査にあたっては地域の研究協力者である CBO 当事者と相互に意見交換をして実施している。また、調査結果は情報としてコミュニティに還元すると共に、啓発資材、啓発方法の開発、実施に活用する。

B. 調査方法

1. 調査日時

2005 年 6 月 18 日、8 月 11 日、9 月 30 日で、

いずれも夜間のイベント時間内に行った。

2. 配布・回収状況

クラブイベントの会場において、CBO が調査員となって調査趣旨の説明とアンケート協力の依頼を口頭にて行い、同意のあった人に質問紙と筆記用具を配布し、回答した質問紙を回収した。3 日間の正確な配布数は不明であるが、回収数は 1003 件（704、99、200）であった。

3. 分析対象者

分析対象数 934 件で、質問紙の回答よりゲイ・バイセクシャル男性もしくは男性と性経験を有する男性を MSM として分析対象とした。

4. 倫理面への配慮

研究協力者である当事者 CBO と連携し、質問票については相互に意見交換し、アンケートは CBO の協力のもとに行った。また、協力施設であるクラブやイベント企画者には、CBO が研究の主旨等を説明した。

C. 結果

1. 対象者の属性

年齢は、10 代後半 1.7%、20 代前半 23.9%、

20 代後半 26.0%、30 代前半 29.9%、30 代後半 13.8%、居住地は東京都内 65.6%、東京を除く関東 26.0%、その他 8.4%であった（図 1、表 1-1）。

2. 施設利用状況

ゲイバー78.4%、ゲイナイト 70.4%、商業系ハッテン場 45.1%（サウナ系 20.4%、マンション系 24.7%）、その他 10.6%）、出会い系サイト 52.8%（PC 出会い系 30.3%、携帯出会い系 22.5%）であった（表 1-1）。

3. 過去 1 年の HIV 抗体検査受検

過去 1 年間の HIV 検査受検率は 36.0%で前回調査の 25.4%より上昇した（図 2、表 1-4）。受検機関としては病院・医院が多く、次いで南新宿検査・相談室、保健所の順であった。南真珠検査・相談室については、平日夜間検査と土日検査はほぼ同数の利用であった。南新宿検査・相談室を知らないものは 44.8%あり、同機関で土日に検査をしていることを知っているものは 34.0%であった。

4. 性行動（過去 6 カ月）とコンドーム使用

アナルセックス時のコンドーム常用率（過去 6 ヶ月）は特定相手のタチ（挿入）では 58.4%、ウケ（被挿入）では 55.9%で、前回調査に続いて 2001 年調査の結果よりも上昇していた。不特定相手のタチでは 64.8%、同ウケでは 62.0%で、これはほぼ前回調査と同率であった。全く使用しない（不使用）ものはそれぞれで 10%前後あった（図 3、4、表 1-3）。最後のアナルセックスでの「コンドーム使用あり」の回答率は、特定相手（n=395）では 49.1%、不特定相手（n=324）では 60.2%であった。

セックス時の併用品としては、コンドームが 73.0%、水溶性ローションが 64.9%であった（表 1-3）コンドーム購入経験は 45.2%で（表 1-4）、前回調査（2003 年）より上昇していた。購入場所の内訳は、薬局 26.6%、コンビニが 12.1%、ゲイショップが 7.3%で、それぞれが上昇し、ハッテン場は 3.7%でやや低くなっていた。

5. 啓発資材の認知

啓発コンドームの受け取り率 43.0 で前回の 45.3%とほぼ同率であった。Rainbow Ring の啓発資材の認知をみると、ハッテン場向けの情報誌「Fucks!」が 8.4%、ポスター「つけてやろうぜ」が 24.2%、『「まいっか」じゃな

いよね』が 17.0%、医療連携情報「S/H」が 4.1%、「Living together Letters」が 13.4%であった（表 1-2）。

6. HIV/STI に関する知識（正答率）

延命治療 60.4%、抗体検査のウィンドウ期 78.7%、STI 感染の相乗作用 69.8%で前回調査とほぼ同様の結果であった。コンドームに関する知識（水溶性コンドーム）では 54.8%の正答率であった（表 1-2）。

7. akta（アクタ）の認知

初めて聞いた 57.7%（前回調査 78.7%）、聞いたことがある 27.4%（同 10.7%）、行ったことがある 14.9%（同 6.8%）で、前回調査に比べて認知率および akta への訪問率も上昇していた（図 7）。

8. akta の認知および新宿 2 丁目来訪頻度別結果

新宿 2 丁目の akta を認知している MSM は HIV 関連知識正答率、コンドーム受け取り率（表 1-2）、過去 6 ヶ月のコンドーム常用率（表 1-3）、過去 1 年の HIV 検査受検率（表 1-4）が有意に高いことが示され、特に akta を訪ねたことがあるもので顕著であった。同地域のコミュニティ対象の啓発の効果が現れつつある。

東京に在住し、過去 6 カ月間のアナルセックス経験が有る MSM（432 人）について、新宿 2 丁目への来訪頻度を～2 回/6 か月（52 人）、3～5 回/6 か月（47 人）、1～3 回/1 か月（190 人）、1 回/週以上（143 人）の 4 群に分類し、知識、意識、行動を比較した。その結果、「抗体検査の適切な時期」、「コンドーム耐性」に関する知識（図 5）、「R2 の啓発資材」の認知（図 6）「南新宿検査室」の認知（図 8）、は来訪頻度の多い群ほど高かった。コンドーム使用頻度は、来訪頻度「～2 回/6 か月」群で低く、「3～5 回/6 か月」群で高かった（図 9、10）。また、過去 1 年間の HIV 抗体検査受検割合は、来訪頻度「～2 回/6 か月」群が最も高かった。

D. 考察

東京では 2003 年からゲイバーへのアウトリーチ活動（デリヘルプロジェクト）を開始し、コンドーム及び啓発資材の配布を毎週行っている。前回調査に比べてコンドーム受け取り率は変化がなかったが、啓発資材の認知率および akta の認知率は高くなっていた。新宿 2

丁目来訪頻度別に比較したところ、啓発資材の認知率やaktaの認知率は来訪頻度の多いものほど高いことが示され、新宿2丁目での啓発活動の効果が来訪者に対して訴求しているものと思われる。

過去1年間のHIV検査受検率は、東京ではこれまで25%前後を維持していたが、今回の調査では36%と上昇していた。また、南新宿検査・相談室での受検者数も増加していた。これは、同検査機関で土日検査を2002年4月から開始したことの結果と思われるが、Rainbow Ringはこの土日検査の開始にあわせた南新宿検査・相談室の広報を東京都と協力してポストカード、ポスター配布を行っており、これらの活動も貢献したと思われる。東京でのHIV検査受検行動が本当に上昇したのかについては、次回の調査を待たなければならないが、徐々にHIV感染症の早期発見、医療機関への早期受診が促進されていることを示唆する結果と思われる。

今回の調査は、新木場地区で行われたゲイ及びヘテロセクシュアルのミックス系のイベント参加者をも対象にした。この結果、前回よりも研究参加者が増えた。また、前回までの新宿地区を中心とした調査に比べて新宿2丁目にあまり来訪しないMSMをも対象とした調査が可能となった。その結果、新宿2丁目への来訪頻度別に啓発プログラムを評価することができた。Rainbow Ringの啓発プログラムは新宿2丁目を訪れる頻度の多いものに浸透していることが示され、MSMへの訴求性があることをうかがわせる結果となった。人材や予算上の課題があるが、これまでのプログラムをさらに東京の他の商業施設で構成しているゲイコミュニティに波及させることができれば、東京でのMSMにおけるHIV感染対策はさらに進むものと考えられる。

E. 結論

クラブイベント参加者を対象に、MSMに対するHIV予防対策の基礎資料とするため、MSMにおける性行動やHIVに関する知識・情報源、コンドーム使用やHIV抗体検査に関する行動や各地域で実施しているプログラムへの接触などを評価した。この調査で得られた情報は、

クラブイベント参加者に偏ったものではあるが、コンドームアウトリーチやその他の啓発プログラムを評価する上で有用なものであった。特に、新宿2丁目への来訪頻度別の検討で、CBOのプログラムの訴求性の高さが明らかとなった。

「抗体検査の適切な時期」、「コンドーム耐性」、「南新宿検査室」、「R2の啓発資材」は来訪頻度の多い群ほど、認知度が高かった。二丁目来訪者へのコンドーム使用の普及と二丁目以外での知識の普及が重要であろうと考える。

F. 研究発表

論文発表

1) Hidaka, Y., Ichikawa, S., Koyano, J., Urao, M., Yasuo, T., Kimura H, and Kihara M: Profile of substance use and sexual practices among Japanese men who have sex with men recruited through the Internet, (J of Urban Health, 投稿中)

口頭発表

- 1) Ichikawa Seiichi, Satoh Mioo, Utsumi Makoto, Onizuka Tetsuro, Yamamoto Masahiro, Kimura Hirokazu: Preventive enlightenment by gay CBO in Japan Seventh International Congress on AIDS in Asia and the Pacific July 3, 2005 Kobe
- 2) Hidaka Yasuharu., Ichikawa Seiichi., Koyano Junko, Urao Michiko, Yasuo, T., Kimura H, Kihara M.: HIV testing behavior among Japanese Men who have Sex with Men 7th International Congress on AIDS in the Asia and the Pacific, 2005.7.3., Kobe)
- 3) 木村博和、鬼塚哲郎、辻宏幸、市川誠一：大阪地域におけるMSM向けHIV/STI予防啓発アウトリーチ、第64回日本公衆衛生学会総会、平成17年9月15日、札幌市
- 4) 市川誠一、日高庸晴、古谷野淳子、木村博和：HIV予防啓発における対人援助職と行政の役割、第64回日本公衆衛生学会自由集会、平成17年9月14日、札幌市